

[水田作部門]

## 2. 岡山県における発酵粗飼料用水稲品種の生育特性

[要約]

発酵粗飼料用水稲 6 品種の生育特性を比較した。「たちすずか」は、全重収量は他の品種と概ね同等であるが、茎葉収量が多く耐倒伏性が強いことから有望である。

[担当] 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 情報

-----  
[背景・ねらい]

県内の発酵粗飼料（WCS）用水稲生産において、飼料用品種が作付け可能な地域では、現在、主に「ホシアオバ、クサノホシ」が用いられている。しかし、「クサホナミ、はまさり、たちすずか、リーフスター」等の品種もこれまでに育成され、特に「たちすずか」は、牛に消化されやすい茎葉の割合を高めたWCS用有望品種とされている。そこで、これら 6 品種の生育特性を比較し、地域における今後の作付品種検討に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 黄熟期は「ホシアオバ」が最も早く、次いで「クサホナミ、はまさり」、「クサノホシ、たちすずか」と続き、最も遅い「リーフスター」では、「ホシアオバ」に比べ 3 週間程度遅い（表 1）。黄熟期における全重収量は「はまさり」で少ないが、その他は概ね同等である。ただし、茎葉収量は「たちすずか」が最も多い（図 1）。
2. 「たちすずか」は、出穂期が 9 月 3 日頃、黄熟期は 10 月 10 日頃で、他の品種に比べ穂収量が少なく、概ね 2 倍の茎葉収量が得られる。ただし、機械収穫で刈り残されやすい地際 10cm 以下の茎（下茎）重も多い（図 1）。
3. 「たちすずか」は、黄熟期になっても穂があまり下垂せず、直立的な草姿である（図 2）。また、多肥栽培にして収穫を遅らせても、「ホシアオバ、クサノホシ」と比べて倒伏しにくい（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 農業研究所（赤磐市）において、2010 年は 6 月下旬に中苗を、2011 年は 6 月中旬に稚苗を、栽植密度 18.5 株/m<sup>2</sup> で移植した結果である。
2. 慣行に準じた病虫害防除法では、問題となる病虫害発生は認められなかった（データ省略）。
3. 本結果は生育特性を示しており、WCS 原料としての評価には、サイレージにした上で飼料成分や発酵品質、牛への給与結果等を総合的に検討する必要がある。

[具体的データ]

表1 出穂期と黄熟期における生育

| 品種       | 出穂期(月/日) |       | 黄熟期(月/日) |       | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/㎡) |
|----------|----------|-------|----------|-------|------------|-------------|
|          | 2010年    | 2011年 | 2010年    | 2011年 |            |             |
| ホシアオバ    | 8/25     | 8/20  | 9/26     | 9/22  | 129        | 205         |
| クサホナミ    | 8/28     | 8/28  | 9/30     | 10/2  | 120        | 211         |
| クサノホシ    | 9/1      | 8/31  | 10/10    | 10/6  | 131        | 196         |
| はまさり     | 9/2      | 8/31  | 10/5     | 10/1  | 111        | 304         |
| たちすずか    | 9/4      | 9/2   | 10/11    | 10/9  | 142        | 262         |
| リーフスター   | 9/8      | 9/7   | 10/16    | 10/14 | 135        | 204         |
| (参考)アケボノ | 9/3      | 8/31  | 10/14    | 10/6  | 121        | 332         |

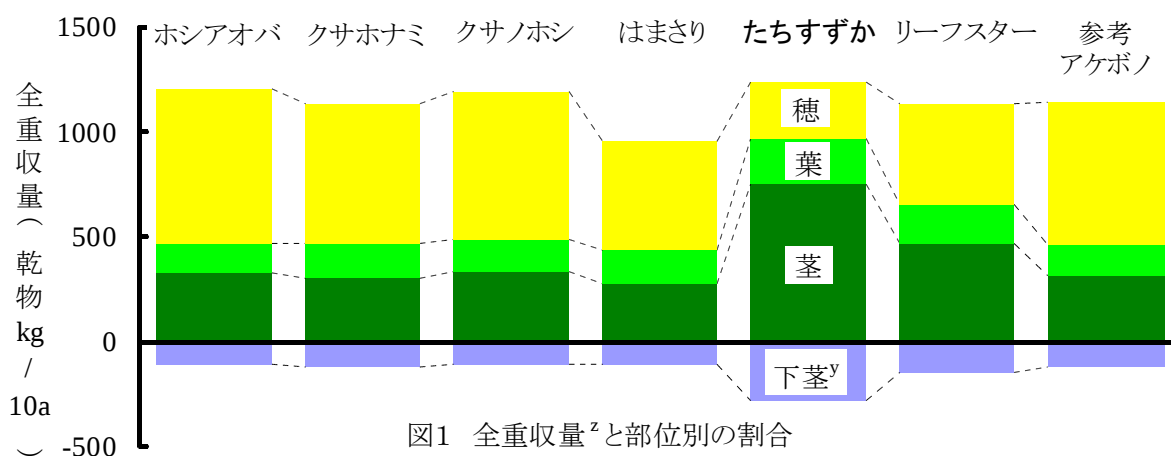
注) 草丈と茎数は2010年と2011年の平均値

2010年は施肥窒素量9kg/10a、2011年は同10kg/10a

表2 黄熟期以後の倒伏進展(2011年)

| 品種    | 施肥 | 倒伏程度(0無-4全) |      |       |       |
|-------|----|-------------|------|-------|-------|
|       |    | 黄熟期         | 11/1 | 11/21 | 12/21 |
| ホシアオバ | 標肥 | 0           | 0    | 0.3   | 2.3   |
|       | 多肥 | 0           | 1.3  | 2.0   | 3.0   |
| クサノホシ | 標肥 | 0           | 0    | 0     | 0.5   |
|       | 多肥 | 0           | 1.5  | 2.5   | 3.3   |
| たちすずか | 標肥 | 0           | 0    | 0     | 0     |
|       | 多肥 | 0           | 0    | 0     | 0     |

注) 施肥窒素量(kg/10a): 標肥区10、多肥区20



<sup>z</sup> 2010年(施肥窒素量9kg/10a)と2011年(同10kg/10a)の平均値

<sup>y</sup> 収穫機械による刈取を想定し、茎のうち地際10cm以下は「下茎」として、全重収量からは除外、クサホナミ、はまさり、リーフスターの下茎は2010年のみ調査



図2 各品種の草姿(2011年10月4日撮影)

[その他]

研究課題名: 発酵粗飼料に対応した水稻の品種選定と低コスト栽培法の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2010~2011年度

研究担当者: 渡邊丈洋